

地元で採れた旬の食材を楽しむ 地産地消お正月料理講習会

地産地消お正月料理講習会が12月3日、吉良町公民館で行われました。農家の女性でつくる市生活改善実行グループ連絡研究会のメンバーが講師となり、自家栽培の野菜などを使って、梨きんとんやふっくら黒豆などのお節料理7品を作りました。参加した男女24人は、講師から農家ならではの知恵や知識を学んだ後、和気あいあいと次々に料理を作り上げていました。参加者は「とてもおいしい」「家でも作ってみたい」と口をそろえ、出来上がった正月料理にご満悦でした。



たすきをつないで6回目の入賞 愛知県市町村対抗駅伝競走大会



快晴に恵まれた12月5日、長久手市の愛・地球博記念公園で愛知万博メモリアル第10回愛知県市町村対抗駅伝競走大会が開催されました。県内全54市町村が、小学生、中学生、ジュニア、一般、40歳以上の男女混合チームを作り、9区28.7kmのコースで競いました。沿道からの大声援を受けた西尾市の選手たちは、全力でコースを駆け抜け、緑色のたすきをつないでいきました。見事、市の部7位でゴールし、5年連続6回目の入賞を果たしました。

戦国時代の西尾城 西尾城シンポジウム2

「戦国時代の西尾城」と題して西尾城シンポジウム2が12月5日、文化会館で開催されました。はじめに愛知大学教授の山田邦明氏が「戦国時代の三河」と題して基調講演を行い、次いで市史執筆員の谷口雄太氏と国学院大学講師の平野明夫氏が報告を行いました。

3氏が参加したパネルディスカッションにおいて、山田氏は「戦国時代は1000年に一度のドラマチックな時代。しかし、社会は変わっても身分は変わらなかった。西尾においては吉良氏が名を残した」と述べ、シンポジウムを締めくくりました。なお、このシンポジウムの講演録は3月に文化振興課から発行予定です。



環境に対する理解を深める 環境Wave21



ごみの減量とリサイクルの推進を通して、環境に対する理解を深めるイベント「環境Wave21」が12月6日、ホワイトウェイブ21とクリーンセンターで行われました。緑のカーテンコンテスト表彰式で幕が開くと、フリーマーケットや福地中学校生徒による花の苗プレゼント、リサイクル作品講習会、燃料電池自動車の展示・試乗など、さまざまな催しを詰め掛けた来場者が楽しみました。環境応援ステージでは、ダンス、大道芸、カテキングショーが披露され、観客の声援や拍手で盛り上がっていました。



日ごろの訓練で得た技術を披露

市 民消防隊ポンプ操法技術発表会

27年度市民消防隊ポンプ操法技術発表会が11月15日、市消防本部で行われました。日ごろの訓練の成果を披露しようと16隊・19チームが出場しました。各チームは地区に整備された小型ポンプを使って、水槽から水を吸い上げホースを延長。約60m先の火災に見立てたボール2個を放水で落とす競技に取り組み、操作の正確さやタイムなどを競いました。結果は第16市民消防隊（戸ヶ崎地区）のB隊が最上位である最優秀賞を受賞しました。どの隊も地域や家族の声援を受けて全力で発表会に臨んでいました。



最新の3Dプリンターでモノづくり教室

3 Dプリンターでペンダント作り



3Dプリンターでペンダント作りが11月28日、鶴城丘高等学校で行われました。親子で共に学習・活動し、家庭教育の充実を図るために開催されたもので、5歳～12歳の子どもとその保護者11組23人が参加しました。同校の岡田先生から、パソコンを使って立体的な図形の表現方法を教わった後、ペンダント作りに挑戦。紙に家や動物などを下書きし、慣れない作業に苦労しながらも、家族で協力し合って制作していました。3Dプリンターが動き出すと、立体的に出来上がっていく様子を一緒に興味深く見入っていました。

能や狂言などの伝統芸能を楽しむ

西 尾城址薪能 鬼たちの一夜

西尾城址薪能公演「鬼たちの一夜」が11月11日、文化会館大ホールで開催されました。能の歴史や能を楽しむポイントなどの解説を受けた後、仕舞、一調、狂言、能の順に上演されました。狂言では「伯母ヶ酒」が上演され、主役を演じた狂言師の野村萬斎さんは、観客から笑いを誘っていました。能では「安達原」が上演され、能楽師の武田友志さんが老婆と鬼を演じ、観客を物語に引き込み、魅了していました。



乗って残そう！ にしがま線

名 鉄西尾・蒲郡線利用促進大会



名鉄西尾・蒲郡線利用促進大会が11月29日、東幡豆体育館で開催され、約400人の参加者が集まりました。大会では、いすみ鉄道応援団団長の掛須保之氏が「私たちのムーミン列車」と題し講演。駅弁やおみやげの販売や音楽列車イベントの開催などの活動を紹介しながら、ローカル線の存続を訴えました。また、沿線の中学校と高等学校の生徒による意見発表があり、福地中学校2年生の さんは「にしがま線には乗った人にしか分からない温かさがあります。にしがま線の良さを発信していきたいです」と述べました。